置物 vs 陶彫 ── 京焼のすぐれた造形力

Okimono (ornamental artifacts) vs. Tocho (ceramic sculpture) - The superior formative ability of Kyoyaki

京焼は飲食器だけでなく動物や器物の形状をかたどった置物の製作においても、類い希なる造形力を発揮してきた。仁清の国宝《色絵雉香炉》をはじめとして、古清水と呼ばれる江戸期の色絵陶器にも、様々な意匠を精巧に写した香炉などが数多く見られる。

大正8年（1919）に京都市から国立へ移管した陶磁器試験所では、昭和7年（1932）にフランスの国立セーブル製陶所で陶磁彫刻を学んだ沼田一雅が彫刻部主任として招聘されて、京都で初めて陶彫の指導が開始された。「彫刻の陶磁器工芸化」を標榜し欧州仕込みの本格的な陶彫技術を駆使した沼田が、伝統を重んじる京都の窯業界へもたらした影響は決して少なくなかったと思われる（p.45参照）。陶彫の一つの影響として、作品の大型化が挙げられる。これは陶彫がモニュメント（記念碑）として用いられたことと関係するが、五代清水六兵衛の《鶴巣籠置物》（出品番号34）の異例の大きさは、同時代の工芸界に波紋を興した陶彫の存在と無関係ではないだろう。ここでは旧来の置物と新参の陶彫、京都で遭遇することとなった両者の相違を見比べていただきたい。

32 ── 四代浅見五郎助
《鶴置物》 大正期～昭和前期

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

京焼多彩なり――明治から昭和へ
三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 44

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社 東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成十九年七月七日発行

© 2007, The Museum of the Imperial Collections